

## ROTARY CONNECTS THE WORLD

ロータリーが世界をつなぐ

2019～20年度年度

国際ロータリー会長 Mark・D・Maloney



## 東京麹町ロータリークラブ

### 本日の例会プログラム

第15回例会 2019.12.9(#2256) 会場:悠の間  
例会ホスト・紹介係 莊村君 会費係 杉本君  
受付係 乳井君 藺君  
司会者 時園君 ソングリーダー 近藤君

卓話「台湾に東洋一のダムを築いた八田與一」  
一龍齋 貞花師匠  
紹介者 中谷会員

### 前回の報告

第14回例会 2019.12.2(#2255) 会場:eDo Room  
例会ホスト・紹介係 福田君 会費係 井関君  
受付係 秋山君 藤田君  
司会者 浅野君 ソングリーダー 近藤君

卓話「ポリオ根絶に向けて～わがクラブの先輩」  
久保田 智也会員

### 会長報告

- 1) 先週は、皆様お疲れ様でした。多くの人皆さまからご好評を頂いております。今期の大きなイベントを無事盛況のうちに終了出来まして、皆様に感謝を申し上げます。
- 2) 11月号のロータリーの友に、久保田会員が福島でのIMで講演した「ポリオ根絶にむけて」が掲載されております。本日はクラブでもお話しして頂こうと、おねがいであります。
- 3) ロータリー財団より、認証ピンが届いております。財団への寄付は会費より、毎年の送金しており、1,000ドル毎にピンが贈られます。はじめての認証として、井関、木寅、澤本会員、若林会員はメジャードナーになり、ピン8です。
- 4) 今月の16日は恒例のクリスマス会を開催致します。ご家族皆様で、お出まし下さい。

### 幹事報告

- 1) IMでは皆様のご協力に感謝を申し上げます。
- 2) 16日のクリスマス会のお申込み、2月13日の地区大会のお申し込みはよろしくお願い致します。
- 3) 下半期の会費納入の御案内を配布いたしました。期日までにお納め下さい
- 4) 例会終了後に、クラブ年次総会を開催致します。数分で終わりますので、皆様お残りください

### 例会記録

会員総数 44名 出席会員数 32名  
ゲスト 0名 その他 0名  
ビジター 0名 事務局 2名  
海外ビジター 0名 出席率 80.25%

11月18日 Make-up後の

出席率 82.45%

### 【今週のMU状況】

若林会員(12/2 ビジョン委員会)  
須藤会員(12/4 豊島東RC)  
若林・佐藤・新保会員 12/4  
次年度ガバナー補佐連絡会・地区連絡会)

### ニコニコボックス

木元会員:先週のIM、皆様お疲れ様でした  
若林会員:IMありがとうございました  
佐藤会員:IMのご協力有難うございました  
荒川会員:IMへのご協力有難うございました  
飯嶋会員:12月16日のクリスマス会には、皆様ご参加下さい。宜しくお願いします。  
結婚記念日:崎山会員(7日)  
夫人誕生日:木寅会員(11日)加賀会員(12日)  
藤田会員(13日)澤本会員(15日)  
中谷会員(19日)新保会員(31日)  
新保会員(31日)  
誕生日:藤田会員(14日)

### 次回予告

第16回例会 2019.12.16(#2257)

17:30～受付開始  
クリスマス会  
代官山レストラン「ASO」  
渋谷区猿楽町 29-3

プレゼントを  
お持ち寄りください



## 我が国、私立大学 これからの課題

学校法人二松學舎 理事長 水戸英則氏 (10/28 卓話 福田会員紹介)



現在、国内の大学は786校あり、私立大学が8割弱(607校)を占めます。大学生291万人のうち7割強(215万人)が私立大生です。我が国の労働人口とGDPの推移を見ると、労働人口の増加とともに国力が上がっていることが分かります。労働

力が増えるのですから当然です。どちらもピークは1997年で、GDPは534兆円、労働人口は6800万人でした。そのうち18歳人口は205万人でした。しかし、それ以降は減少し、現在の18歳人口は約120万人です。2040年には80万人、2060年には60万人になることが予想されています。

2018年時点で、労働人口6600万人のうち大卒者は約3分の1でしたが、2040年には大卒者の割合は約8割に達すると予想されています。先ほど話したように私大の割合は8割弱ですから、このままいけば2040年には、労働人口のうち私大卒業生が6割を占めるわけです。だからこそ大学、特に私立大学は学生に教育をきちんと施し、我が国を支える人材を育成しなければなりません。

世界における我が国の現状を見ると、さらに猶予はないと感じられます。国民一人当たりのGDPは1993年には世界2位でしたが、現在は26位にまで下がっています。成長は労働者一人の生産性×労働人口によって算出されますが、労働人口が下がり、生産性も下がっていくので、成長が望めません。さらに、2013年時点で人口比約6割だった労働人口は、2060年には5割にまで減少し、ますます働き手がいなくなってしまう。現在、日本のGDPは世界3位ですが、このまま生産の効率化を進めなければ、2060年には20位ぐらいにまで国力が落ちていくでしょう。今の若者たちが年を取ったときには、格差が拡大して一人ひとりが豊かな生活を実現できない可能性があるという事実を知っておくべきです。

厳しいのは経済的な問題だけではありません。我が国の大学も国際競争力を失っています。世界大学ランキングの上位はイギリスとアメリカの大学で占めており、日本の大学でトップ200位以内に入ったのは東京大学(36位)と京都大学(65位)だけです。一方アジアでは、中国やシンガポール、台湾、韓国の大学が次々とランクアップしています。

国内情勢の変化を見ても、これからはAIやIoT、ビッグデータなどが産業や経済にどんどん浸透し、社会、経済構造が大きく変わっていくことが予想されます。

18歳人口の減少に伴い、大学余剰の時代が到来します。地方の大学に行く学生がいなくなると同時に、高卒の雇用市場が縮小し、大学が主な職業教育の場になっていくでしょう。業種も製造業からサービス業・情報通信業へとシフトし、定型業務などはAI利用が進んで、人間が行う業務は二極化していきます。一方で、大学の社会人教育は低調であり、女性の再就職の困難さや高齢者雇用の需要拡大への対応も求められます。こういった変化を見越した大学教育を目指さなければならないのです。

こういう状況下文部科学省では、3年前から委員会や検討会議などを立ち上げ、未来社会における高等教育の有り方について、さまざまな議論を展開しています。例えば18歳人口減少への対応策として規模適正化を図るために、国公私立を問わず大学同士が連携しやすくしたり、東京23区内の大学定員の規制をさらに厳しくするなどの措置が予想されます。教育の質的向上という観点では、偏差値教育からの脱却によって個人の資質・能力の底上げを図ったり、変化に対応できる思考力や協働性などを涵養したり、文系でもAI等へのスキルを養わせたりするなどの意見が出ています。国際的にEU諸国に追いつく仕組みとしては、論文を英語で発表して引用回数を増やすことや、教員や授業のシェアリング、単位互換や学位の国際基準の導入を進めることなどが挙げられています。また、最近の若者は就職してもすぐに退職して、転職したり、資格を取ったり、起業したりする傾向にあり、人生の過ごし方がモノからマルチに変わってきています。そこで、大学は産業界と連携したさまざまな開講科目を設けて受け入れ態勢を整えるいわゆるリカレント教育も議論されています。

このような情勢を眺めつつ今後の大きな変革への対応を進め、我が国の国力を支える人材を育てていくことが今後の大学教育の課題です。そして、その人材の7割は私立大学の学生が占めることになるので、私立大学の教育研究の使命は極めて重大であると言えます。

クラブだより No.15

**年明け、例会始めは1月20日です。**

三遊亭楽生さんの落語と獅子舞でお賑やかに  
新年を寿ぎます。

東京麹町ロータリークラブ

設立	1968年6月17日	〒102-0093
例会日	月曜日 12:30	千代田区平河町1-3-8
例会場	ホテル・ニューオータニ	平河町プラザ204号
		TEL:03-3263-9220
会長	佐藤 茂	FAX:03-3263-9122
幹事	荒川 和幸	e-mail office@koujimachi-rc.jp
会報委員長	植芝 守央	URL: www.koujimachi-rc.jp